



ハンザ同盟都市の風格が 今も残る街「グダンスク」

ポーランド政府観光局

「グダンスク」(Gdańsk)は、ヴィスワ川が海に注ぎ込むデルタ地帯にある歴史と文化の街。かつてのハンザ同盟都市としての風格が今も残るこの街は、戦前には自由都市グダンスク(ダンツィヒ)のステイタスを持ち、ドイツ人とポーランド人、そして少数民族のカシューブ人などが共生していた歴史もあります。その名残か、グダンスクではポーランドのほかの都市とは一味違ったコスモポリタンな空気が感じられます。



千年都市「グダンスク」

千年都市の「グダンスク」は、ポモルスキェ県の県都であり、随一の観光地です。ハンザ同盟都市としてこの町が享受した栄華は、今の時代も文化遺産としてしっかり受け継がれています。かつてこの地の富を支えてきたものは外国貿易と琥珀でした。バルト海の沿岸は良質の琥珀の産地として知られ、琥珀の取扱店や加工をしている工房は全国一の規模になっています。バルト海の琥珀はかつてはローマ帝国でも有名で、隊商がアルプスを通り、現在のオーストリア、チェコからポーランドを横切るようにして琥珀を求めて移動していました。琥珀を好んだのはローマの隊商だけではありません。中世にこの地を占有していたチュートン騎士団にとっても琥珀は大きな財源でした。聖地回復を掲げてエルサレムに赴いたチュートン騎士団は、ポーランド王の招聘によって現在のポーランド北部・北東部に勢力を広げ、各地に立派な城を建設しました。その一つが世界遺産「マルボルク城」です。ゴシック城郭建築としては世界最大と言われるこの城は、当時の技術の粋を凝らして設計され、床暖房などの新しい技術も導入されていました。そのほかヴィスワ川沿いのクフィヰン、グニェフなどにもホレンガ造りの美しい城があり、観光スポットとして知られています。

【アクセス】 グダンスクへは、空路・鉄道の利用が便利です。国際空港が市の南西にあり、市内からはタクシーで約30分。ヨーロッパ各都市と結ばれています。日本から一番早いアクセス方法はワルシャワ、フランクフルト、ミュンヘン、コペンハーゲン経由の空路です。鉄道は、ワルシャワから約3時間弱。電車の本数も比較的多いので便利です。またクラクフ、ヴロツワフへは飛行機も便利。



マルボルク城



クフィヰンの騎士団の城

グダンスクの観光スポット

グダンスク中央駅から、歩けば10分ほどで中世貴族の富を象徴する館が軒を連ねる旧市街に着きます。ここは、かつては国王の凱旋パレードが行われたメインストリート「ドゥーガ通り」。長さが500mもある珍しい街路型の広場です。ドゥーガ通りの西端に見えるのがブラマ・ヴィジナ(Brama Wyżynna/高い門)です。ここからグダンスクのロイヤルロードが始まります。この門には、ポーランド王国、王国に服したプロイセン公国そしてグダンスクの紋章と「あらゆる王国の柱となるのは正義と敬神」という言葉が刻まれています。ドゥーガ通りの門前で、まるで中世の城壁のように見えるのは、かつて刑罰が執行された「拷問の家」と17世紀から19世紀にかけては刑務所になっていた「牢獄のやぐら」からなる囚人塔(1539)です。現在、この塔の上の部分には世界最大の琥珀塊でできた像など、いろいろな琥珀を見学できる琥珀博物館があります。

琥珀博物館 (Muzeum Bursztynu)

ポーランドでたった一つの琥珀博物館。ここでは美しい琥珀の世界をお楽しみいただけます。この通りに沿って歩いて行くとすぐ見えてくるのが黄金の門とウブハーゲン邸です。

黄金の門 (Złota Brama)

17世紀はじめにできた凱旋門。これをくぐって王の一行が市中に入ってきたといわれています。門の上の彫刻は、平和・自由、裕福、名声、調和、正義・敬神と賢明をあらわしています。

ウブハーゲン邸 (Dom Uphagena)

ロココ様式のこの民家は、かつてはグダンスクの評議会議員ウブハーゲンの邸宅でした。現在は、当時の富裕層が住んだ邸宅の内部を見学できる博物館となっています。



ドゥーガ通り



「王の道」ロイヤルロード(昼と夜)、奥に見える塔が市庁舎

🏰 大兵器庫 (Wielka Zbrojownia)

オランダ・ルネサンス建築の秀作といっても過言ではないこの建物の内部には、かつて大砲や弾丸などが保管されていました。この大兵器庫の前にある取り出し口は、地下から大砲の弾を出すためのもの。古代の神殿の形をまねて、ドーム型の屋根がついています。

🏰 旧市庁舎 (Ratusz Głównego Miasta) / グダンスク歴史博物館 (Muzeum Historyczne Miasta Gdańska)

1379年着工、高さ82mの旧市庁舎は、グダンスクの富とこの町のヨーロッパにおける地位というものを顕示するものでした。現在はグダンスク歴史博物館となっています。また市庁舎の上の展望台からは、グダンスクの美しいパノラマが楽しめます。

🏰 ネプチューンの噴水 (Fontanna Neptuna)

海の守護神であるネプチューンのブロンズ像は、17世紀からこの町を見守っています。旧市庁舎のすぐそばにあり、いつも観光客がいっぱいの人気のスポットです。

🏰 アルトゥール館 (Dwór Artusa)

この白亜の建物には、昔、同業者組合(ギルド)の本部がありました。インテリアとして飾られている絵画や模型、甲冑やタイルには当時の権力者や家紋が描かれています。中でも高さ10m以上もあるルネサンス時代のペチカは圧巻です。

🏰 黄金の家 (Złota kamieniczka)

17世紀にグダンスクの市長でもあった商人 ヤン・シュペイマンが、妻 ユディタのために建てた住宅です。建物正面の飾りは、イタリアに発注してあったものの運搬船の沈没により、裏面に取り付けるはずであった飾りが転用されています。また、ユディタの幽霊が出るともいわれるミステリースポットとしても知られています。

🏰 緑の門 (Zielona Brama)

1568年から71年にかけて造られたオランダ・ルネサンス様式が美しいこの建物は、ドゥーギ広場の最後、モトワヴァ運河に一番近い場所に建っています。当初、この建物はグダンスクを訪れる各国の国王のための宿泊所となるはずでしたが、実際には1回しか利用されませんでした。現在では国立博物館の別館としてさまざまな展示会が開催されています。また、かつて大統領でもあったフレサ氏の事務所があることでも知られています。

🏰 聖マリア教会 (Kościół Najświętszej Marii Panny)

150年という長い年月をかけて造り上げられたこの教会は、レンガ造りの教会としてはヨーロッパ最大のもの。アウグスブルク出身のミハウ・シュヴァルツ作の祭壇、石造りのピエタ(嘆きの聖母像)、バロック様式のパイプオルガンなど素晴らしい芸術品の数々が保管されています。また、塔の400段の階段を上ればグダンスクの眺望が楽しめます。

🏰 マリア通り

モトワヴァ運河に向かってのびるマリア通りには、琥珀のアクセサリーを売る店が並んでいます。琥珀はポーランドの特産品のひとつで、グダンスクは琥珀の取扱店が全国一多いことで知られています。

🏰 ジュラフ (木造クレーン)

マリア通りからモトワヴァ運河に出て左を見ると、ちょっとふしぎな形をしたポーランド語で鶴を意味する「ジュラフ」と呼ばれる木造クレーンが見えます。中世に作られたこのクレーンは、貿易船への荷物の積み下ろしやマストを立てるために使用されていました。内部には、かつて使用されていた歯車が再現されており、今でも動かすことができます。現在は、本館がモトワヴァ運河の対岸にある海洋中央博物館の大物コレクションの展示場所にもなっています。なお「ジュラフ」から海洋中央博物館と船内博物館(Soldek)間には、船が出ています。



グダンスク市庁舎と
ネプチューン像



モトワヴァ運河と木造クレーン

郊外に足をのぼせば...

🏰 ヴェルテルプラッテ (Westerplatte)

グダンスク北東のヴェステルプラッテは、第二次世界大戦が勃発した地として歴史に名を残しています。1939年9月1日、ドイツの戦艦シュレスヴィヒ・ホルシュタインが突然砲撃をしかけ、2,600名の戦力を投入したドイツ軍の激しい攻撃に少人数の守備隊は1週間持ちこたえました。ここには、そんな勇敢な将兵たちをたたえた記念碑があり、グダンスクの観光名所のひとつとなっています。

🏰 オリーヴァ (Oliwa)

グダンスク中央駅から鉄道で約10分のオリーヴァは、かつてドイツの探検家 アレクサンダー・フンボルトをして「世界で3番目に美しい場所」と言わしめた『オリーヴァ景観公園』と「世界でもっとも美しい音色のオルガン」といわれたパイプオルガンがある『オリーヴァ大聖堂』で有名です。6月から9月にかけてのシーズン中は毎日オルガンコンサートが開催されています。

🏰 ソポト (Sopot)

1798年以降、ポーランド人貴族の投資によって興った都市 ソポトは、マリリゾートのメッカとして知られています。グダンスクに隣接する街 ソポトの一番の見どころは、458mにも及ぶ木造栈橋です。心地よい潮風を感じながら、海の上を水平線に向かって歩くような体験ができます。



大聖堂のパイプオルガン



ソポトの木造栈橋

おすすめのイベント: グダンスクの聖ドミニコ市

中世の時代から7世紀半も変わることなく開催されているのが「聖ドミニコ市」で、3週間にわたって旧市街エリアにはたくさんのお店が並びます。気取らずにカジュアルに楽しめる琥珀のアクセサリーもお手頃価格! 骨董、手工芸品、日用品からはちみつやドライソーセージなどといった伝統的な食品までポーランドの歴史と味が並びます。毎年15万人近くの人々が訪れ、この期間は旧市街がいっそうにぎわいます。開催期間中はさまざまなコンサートやパレード、ショーといったイベントも。2017年は7月29日(土)から8月20日(日)まで開催です。



- 名称: 聖ドミニコ市聖ドミニコ市 (Jarmark Św. Dominika)
- 場所: グダンスク旧市街周辺エリア
- 公式サイト: <http://jarmarkdominika.pl/en/>